

%, 肥満22%, X線上の心拡大12%, 眼底異常7%, 胃・十二指腸潰瘍9%, 肝・胆道系異常10%などとなっている。すなわち, 新規入会した会員の約60%は何らかの異常を指摘されており, 成人病定期検診の重要性がうかがえる。

これら発見疾患の経過, 予後を含めて若干検討を加えたので報告した。

## 28. 気管支喘息児夏期短期合宿の試み

(小児科)

○宮部美智恵・倉持 恵・神津美和子・  
林 雅次・笠井 和

(学生) 向井 直子・小泉 説子

小児の気管支喘息の治療に親子分離ということが提唱され, 気管支喘息発作の誘因に環境問題が論じられている。間歇期の生活療法, 鍛練療法, 自律療法も研究されて来た。私共も夏休みを利用しての気管支喘息児の短期合宿を試みて, 3年になる。2年目から新宿区教育委員会のご好意により新宿区立足柄学園を使用することができたので, 同園における2回の合宿について報告する。

学園の都合もあり, 期日は8月末で5泊6日, 対象は小学生で20~27人である。

引率者全員と密な接触を保ち, 24時間起居を共にし, 観察した。

日課は午前6時半起床から午後9時就床まで, 鍛練と遊び, 学習をおりませ, 行事として花火, きもだめし, 運動会, キャンプファイア, 野外パーティーを行なった。

1年目は発作をおこしたものの1名, 2年目は発作らしいものはなく, 全員元気に過した。

今回は生活面からの観察を主として, 子供の自信をもつたことを述べた。

殊に運動面については日頃行なっていないことのできた喜びと自信は, 患児自身もおどろきながらみとめ, その後の生活に大きな変化をもたらしていた。

## 29. ペルテス病における骨格の発育異常について

(整形外科) ○飯田 裕・並木 脩

ペルテス病が Legg, Calvé (1910年) および Perthes (1913年) によつて記載されて以来, その病因論については種々議論されている。そして病因論ないし, 興味を中心は股関節における局所的疾患という立場が優性を占めている。Cavanaugh (1936年) は, ペルテス病患者の手根骨々核のX線検査により, その骨核の発現ならびに発育の遅延を認め, 本疾患が単なる股関節部の変化のみ

でなく, 他の骨格, 骨端核にも発育障害があり, 甲状腺機能不全による基礎代謝の低下がこの疾患の原因であろうと推論している。Goff (1954年) も本疾患々者には発育異常があると述べ, Girdany, and Osman (1968年), Fischer (1972年) もペルテス病患者の多くのものに骨格発育遅延を認めている。Harrison ら (1976年) は本疾患々者の手根骨々核の発育が股関節疾患と相関していると発表している。飯野 (1942年) はペルテス病患者の手根骨および足根骨々核につきX線的に検索し, 罹患側の手根骨々核, 足根骨々核の発育が健側に比して遅延していることを観察し発表している。

われわれは, ペルテス病患者に患肢の下肢長と, 下肢周囲長の短縮がある例を経験した。飯野の観察よりすれば, 本症にこのような差異が生ずる可能性があるのは充分予想されるが, 現在まで文献に発表されていない事実があるので, 当科を受診したペルテス病患者につき, 種々の検索を行なった。

## 30. 過去5年間に治療・観察した先天性股関節脱臼について

(第2病院整形外科)

○大野 博子・上田 礼子・田辺 智子・  
市瀬 武彦・須永 明・菅原 幸子

第2病院整形外科においては, 昭和45年より小児整形外科疾患の特別診をもうけ治療を行なっているが, 筋性斜頸の治療成績については一昨年の総会において発表した。今回は先天性股関節脱臼(白蓋形成不全を含む)につき, 予後を含む経過観察を行えた症例につき, 治療方法, 経過等について述べる。

症例数は男17例, 女81例, 計98例である。その内, 先天股脱(亜脱臼を含む)は63例(両側4, 右側22, 左側37)67関節であり, 白蓋形成不全は35例(両側9, 右側11, 左側15)44関節であつた。初診的年齢は10日~1歳8カ月の間である。治療方法は以下の4法により開始した。1) オムツによる開排位保持: 当方法は1カ月以内に治療開始した3例の先天股脱に行い, 当方法のみで全例治癒した。2) 頭上牽引法: 1歳4カ月に治療開始した先天股脱1例に行い, 1カ月後整復されず観血的整復術を施行した。3) 徒手整復術: 1歳2カ月の初診時クリックと共に開排位で徒手整復可能であつたためギブス, 後に装具による固定を行い, 治癒せしめた。4) リーメンビューゲル(以下 R.B. と略す)法: 93例(脱臼58例, 白蓋形成不全35例)に当方法を施行した。白蓋形成不全例では R.B. 装着後1~2週で開排制限が消失